

子どもが生き活きと暮らせる世界のために

エファジャパン年次報告書 2012

ご挨拶



みなさまのご支援により、2012 年度も子どもの権利を実現するための活動を実施することができましたこと、心より御礼申し上げます。ここに、1 年間の活動をご報告させていただきます。

自治労による「アジア子どもの家事業」を引き継いで以来、ベトナム、ラオス、カンボジアで子どもの家から始まった支援事業を続けて参りましたが、2012 年度はベトナムの状況が大きく変化しました。1995 年に自治労により設立され、

エファジャパンが支援を引き継いだ児童保護施設である「ベトナム（ニエムギア）子どもの家」が、児童福祉のためのソーシャルワークセンターに改編され、それまで行なっていた児童の一時保護事業が終了しました。事業開始から 16 年余りを経て、ハイフォン市での子どもの保護は 3 箇所の児童養護施設に集約され、「ベトナム子どもの家」はその役割を終えることになったのです。その間、たくさんの子ども達が保護され、子ども達が母と慕う寮母のケアのもと学校に通い、あるいは識字教室で勉強しながら、十分な食事と、友人と笑い合える子どもらしい生活を得て、すくすくと成長していきました。子どもの家を卒業した後の子ども達は、職を得て家族のもとへ帰る者、勉強を続け大学に進む者、養子に迎えられ新しい保護者との生活を始める者など、成長期に貧困や暴力から保護され教育の機会を得ることで、生きて行くための道を切り開くことができた様子が伺えます。

ベトナムでは今後、困難な状況の中で長らく置き去りにされてきた障がい児へと支援の軸を移し、彼らと家族が地域の中で生き活きと暮らしていける社会をつくる手助けをしたいと考えております。また、エファの支援地であるラオス、カンボジアでも、子ども達の保護、教育など、子どもの権利の実現のための活動を継続して参ります。今後とも、みなさまのご理解とご支援を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人エファジャパン
理事長 イーデス ハンソン

— 目 次 —

ご挨拶	2	ベトナム	8～9
2012 年度活動ハイライト	3	タイ	10
エファジャパンの組織	3	エファグッズ	10
カンボジア	4～5	国内事業	11～12
ラオス	6～7	会計資料	13～15

2012 年度活動ハイライト

・・・国内事業・・・

・古本リサイクル募金開始

古書買取店と提携し、古本を処分してエファジャパンに寄付する古本リサイクル募金を 11 月から開始。

・・・海外事業・・・

・ベトナム子どもの家改編

1995 年に設立され、エファジャパン設立時から支援を行ってきた児童一時保護施設「ベトナム（ニエムギア）子どもの家」が子どものためのソーシャルワークセンターに改編。

・ハイフォン市障がい児現況調査

今後のベトナムでの支援事業を障がい児を中心に展開するため、支援地となるハイフォン市で専門家による現況調査を実施。

エファジャパンの組織

支援者

会 員

正会員…167 人
シニア会員…30 人
賛助会員個人…47 人
賛助会員団体…45 団体

総会

（正会員で構成）

- ・エファパートナー
- ・一般寄付者（個人）
- ・一般寄付者（団体）
- ・事業指定寄付者（個人・団体）
（ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ようちえん募金、
荒川さん募金、書き損じハガキ・古本リサイクル募金、
他）
- ・ボランティア
（事務局ボランティア・デザインボランティア）

理事会

理事長	イーデス・ハンソン
副理事長	植本 真砂子
理事	氏家 常雄
理事	大石 芳野
理事	大島 芳雄
理事	上條 直美
理事	木下 究
理事	佐藤 克彦
理事	高橋 睦子
理事	玉井 一匡
理事	千田 真
理事	西田 一美
監事	山形 昌弘

事務局

事務局長	大島 芳雄
国内事業	五十嵐 香織
広報	宮原 朝香
ベトナム駐在	崎川 勝志

2013 年 3 月 31 日 時点

カンボジア

Cambodia

カンボジア概況

・支援が必要な背景

ポル・ポト政権の恐怖政治によって社会システムが崩壊したこの国は、人材の養成が急務です。しかしながら、偏った経済成長により貧富の格差が広がり、貧しさ故に教育を受けることができない子ども達が大勢存在します。

・支援の目標、目的

教育を受ける権利は、全ての子どもに保障されなければなりません。「中央から地方へ」、より多くの子ども達に教育の機会を提供すると同時に、教育の質の向上をめざします。

ノンフォーマル教育（寺子屋教室）運営支援

■ SCADP

カンボジアの NGO、SCADP（Street Children Assistance and Development Programme: ストリートチルドレンの支援と育成事業）は、1992 年に創設者のイム・ソカリィ女史がプノンペンでひとりのストリートチルドレンと出会い、その子にノートと鉛筆をあげて読み書きを教え始めたことから、活動が始まりました。その後、1998 年にカンボジア内務省から市民団体としての正式な認可を受け、現在では教育事業を中心にプノンペン市と地方 7 県で活動しています。

■ 寺子屋教室



プノンペンの教室

SCADP が運営するプノンペン市内のスラム 3 カ所と隣県カンダールの村 1 カ所の寺子屋教室で、小学校に通っていない子ども合計 261 人を登録し、登録児童には 1 年間に使用する学用品を支給、教員には給与を支払いました。授業は午前と午後の 2 部制で、読み書き、計算、保健衛生、健全な社会生活を送るための知識などを教えています。

鹿児島県労働者福祉協議会のご支援で、4 課目の教科書（国語、算数、保健、生活）を登録児童数購入し、全員に貸し出すことができました。自宅で予習・復習ができるため、学習効果の向上が期待できます。

教育の質を向上させるため国立幼稚園教員養成学校に聴講生として派遣した寺子屋教室の教員 2 名が 2 年間

の研修を終え、そのうちの 1 名がこの地域の教室で教え始めました。

■ 国境地帯の子どもの教育支援

世界遺産である寺院遺跡周辺を巡りタイ軍とカンボジア軍が対峙しているカンボジア北部プレアビヒア県の国境地帯では、タイの政権が代わったこともあり、緊張状態は緩和され、ホテルやレストラン建設などの観光開発が始まりました。

内戦から現在の国境紛争に至る間に、多くの兵士が動員され、家族と一緒に生活したり、除隊後に定住しています。ほとんどの居住地が森の中にあるため、子ども達は公立の学校に通うことができません。

SCADP は、この国境地帯 14 カ所で寺子屋教室を運営しています。登録児童数は 959 名。生徒の学用品や教室の備品・教材もほとんど無い状態だったため、2011 年度に初めて生徒への学用品や全教室への備品・教材の配布を実施し、2012 年度も引き続き、登録児童全員に学用品を配布しました。国立幼稚園教員養成学校に聴講生として派遣した寺子屋教室の教員のもう 1 名が、卒業後教室のひとつで教えています。



プレアビヒアの授業風景

SCADP 支援

■ SCADP 児童保護施設

SCADP の本部には、様々な理由で保護者と生活できない子ども 40 ～ 50 名が保護され生活しています。健康的な生活ができるように、石鹸、洗剤、歯磨き粉などを随時補充しました。

■ SCADP 就学前教育

SCADP の本部では、近所の就学前児童を集めて教育の機会を提供しています。知育玩具の提供や教員研修を行ない、教育環境と教育内容の向上を図りました。



就学前教室

カンボジア子どもの家奨学金事業

■ 子どもの家概況

1997 年に、自治労の支援によって、首都プノンペンに国立幼稚園教員養成学校および付属幼稚園として設立されました。養成学校は 2 年制で、1 年生が 200 人、2 年生が 200 人、合計 400 人が学んでいます。カンボジア唯一の幼稚園教員養成の場であり、国全体の幼児教育と保育に大きく貢献しています。

幼稚園には 100 人余りの幼児が通園しています。古くなった園舎を取り壊し、日本大使館の援助で 2 階建ての園舎を新築しました。

■ 奨学金事業

園児 30 名と訓練生 25 名に月 25 ドルの奨学金を 10 か月間支給しました。2012 年秋の新学期からは、園児 30 名と訓練生 25 名に月 25 ドルの奨学金を支給しています。

貧しい子ども達に幼児教育の機会を提供することで、小学校への就学率の向上、退学率の減少、卒業率の向上を支援します。

地方出身の貧しい訓練生にとって、奨学金は大都市プノンペンでの生活費を助け、経済的理由から中途退学することを防いでいます。卒業後は郷里に戻り、地方の就学前教育の質の向上に寄与することが期待されています。

■ 外遊具寄贈

書き損じハガキ収集による支援として、園舎立て替えのために園庭が更地になっていた付属幼稚園に外遊具を設置しました。



設置した外遊具

■ 保育士による技術指導ボランティア

日本の公立保育園で保育士として働いていた荒川智子氏は、退職後、国立幼稚園教員養成学校で保育指導のボランティアをしています。校長の信頼も厚く、訓練生からも慕われている荒川氏の活動に助成金を支給しました。

カンボジア事業の今後

カンボジア子どもの家奨学金事業は、2012 年度で園児への奨学金を終了し、2013 年度からは訓練生への奨学金のみ継続します。荒川智子保育士の活動は、幼稚園教員養成学校での教育内容向上に対する貢献度が高いことから助成を継続します。

寺子屋教室運営に関しては、「中央から地方へ」の事業方針に基づき、首都プノンペンから国境地帯へ支援の重点を移していきます。

ラオス Laos

ラオス概況

・支援が必要な背景

ラオスでは図書館・図書室及び図書の絶対数が不足しているのに加え、全国の図書館（室）を取りまとめ、網羅的に支援するラオス図書館協会の機能強化が急務です。また、子ども文化センター (CCC) は農村部や遠隔地への活動の拡大が望まれています。不発弾が多く残っている地域では、子ども達の被害を防ぐため CCC による子どもの不発弾啓発活動が効果的です。

・支援の目標、目的

多くの子ども達に本に触れる機会を提供します。また、ラオス図書館協会の機能強化を通じて、ラオスの図書館界全体の運営改善を図ります。CCC の活動対象地域を経済的に貧しい地域にも広げ、不発弾啓発活動では農村や遠隔地の子ども達に分かり易く、不発弾の危険性や対応の仕方を啓発し、被害の拡大を防ぎます。

図書館事業

■図書館概況

ラオスの多くの学校や地域には図書館・図書室がありません。また、図書館・図書室が地域に設置されている地域でも、交通・輸送機関が未発達で継続的なサポートも不十分のため、各図書館・図書室は孤立しがちで、他地域への波及効果も限られています。

■ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール支援

自治労中央本部と3県本部（北海道・東京都・愛知県）のご支援で2006年に完成・開館したヴィエンチャン市立図書館は、開館から6年が経ちました。図書館の開館時間は、平日月曜日～金曜日が9時～18時、土曜日が9時～16時となっています。2012年の利用者はのべ55,855人、貸出人数はのべ3,251人、貸出冊数はのべ7,484冊でした。隣接する多目的ホールでは、子どもの日などの記念日に催し物が行なわれています。自治労東海地区連絡協議会からは運営費として、備品の購入や職員の超過勤務代、新聞・雑誌の定期購読代に加え、パソコンの購入などをご支援いただきました。

また、2年余りの間、館長と副館長が不在の状態が続いていましたが、2012年11月に新しい館



長と副館長が就任しました。管理者がようやく就任したことで、今後の図書館運営が安定し、長期的な計画立案も可能になります。

■コミュニティ図書館支援

自治労静岡県本部のご支援により建設されたノンセンチャンコミュニティ図書館と自治労新潟県本部のご支援により建設されたタートン村コミュニティ図書館はヴィエンチャン都郊外の小学校の敷地内にあります。この2つのコミュニティ図書館では、読書推進活動として定期的に図書館の本や紙芝居をバイクに積んで、図書館・図書室がない近隣の小学校に出張し、本を読んだり、紙芝居の読み聞かせを楽しむ機会を提供しています。

■ラオス図書館協会支援

ラオス図書館協会は、2007年に国内の図書館界の有識者から構成される全国組織として設立されました。

その目的はラオスの図書館界全体の発展を通して、国内の各図書館・図書室の運営やサービスの質を向上することにあります。しかし実際は、財源不足のため活動が停滞していました。

そこで、ラオスの限られた優秀な人材を最大限に活かし全国の図書館・図書室の発展に貢献するため、ラオス図書館協会の組織機能強化を支援しています。2012年度は、新しくラオス語で出版された件名標目表の使い方に関する研修やラオス南部での図書館・図書室調査、図書館協会機関誌の発行、ベトナム・ハノイへの図書館研修ツアーの実施などを支援しました。これらの活動を通して、ラオス図書館協会は全国の図書館・図書室に対し網羅的な影響を与える組織へと変わりつつあります。



地方子ども文化センター支援事業

■子ども文化センター (CCC) 概況

ラオスの子ども文化センター (CCC) は日本の児童館のような施設です。子ども達は週末や放課後に CCC を訪れ、ジュニアリーダー (JL: 先生を補佐し活動をリードする年長の子ども達) の先導で伝統楽器や舞踊、絵描き、工作など様々な活動を楽しみます。ラオスの学校では、国語や算数などの主要教科の授業が中心で、情操教育や課外活動はほとんど行なわれていません。CCC は、学校教育を補完する役割も期待されています。

■カムワン県・シェンクワン県 CCC

自治労大分県本部のご支援によりカムワン県とシェンクワン県の CCC で実施してきた子どもを対象にした不発弾啓発活動が終了しました。カムワン県とシェンクワ



ン県はベトナム独立戦争時代にアメリカ軍による最も激しい爆撃を受けた地域で、今でも多くの不発弾が残っており、毎年子どもの死傷者が出ています。不発弾啓発活動では、カムワン県とシェンクワン県の JL が各村に向き、不発弾を題材とした歌や寸劇、ゲームや Q&A などを行ない、子ども達に不発弾の危険性を啓発しました。2010 年 9 月に始まったこの啓発活動は、カムワン県の 11 の村、シェンクワン県の 10 の村、計 21 の村で実施され、合計で約 3,800 人の子ども達が参加しました。

■ルアンパバン県・郡 CCC

自治労佐賀県本部のご支援を頂いて実施しているルアンパバン県の CCC 支援では、新たな郡 (県より一つ下の行政区) CCC の設置を支援しました。今回 CCC の設置を支援したポントン郡は、2010 年にルアンパバン県の山岳部に出来た新しい郡で、経済的にも貧しい地域です。設置にあたっては、設置式の開催や、伝統楽器および文房具などの活動用具の支援を行ないました。

■セコン県 CCC

セコン県 CCC は、エファジャパンが 2009 年 11 月～2010 年 11 月に日本政府外務省の NGO 連携無償資金協力を得て設置を支援した県 CCC です。設立・運営支援終了後の現状視察のため、2012 年 10 月にセコン県 CCC を訪問し、活動のフォローアップとして、本や文房具、舞踊用具などを寄贈しました。

その他の活動

■少数民族学校支援 (カムワン県)

カムワン県少数民族学校は、貧困や保護者がいないなどの理由で地元の学校に通えないカムワン県の生徒計 413 人が通う全寮制の学校です。多くの生徒が住んでいるにも関わらずトイレや水浴び場が不足していたため、自治労九州地区連絡協議会からのご支援により、学校の敷地内にトイレ兼水浴び用の小屋を設置しました。

■少数民族学校支援 (セコン県)

セコン県はラオスで最も貧しい県の一つで、カムワン県少数民族学校同様、貧困家庭の生徒や保護者がいない生徒が学んでいる全寮制の学校です。生徒達には入学時に一度だけ制服が支給されますが、新たな制服を買うお金がないため、傷んだ制服を着続けています。そこで、書き損じハガキの資金で男子生徒 264 人に制服用ズボン、女子生徒 177 人に制服用スカートを寄贈しました。

ラオス事業の今後

図書館事業では、ヴィエンチャン市立図書館やエファジャパンが設置したコミュニティ図書館 (室) のモニタリング・フォローアップを行ないながら、自立した運営ができるよう働きかけます。ラオス図書館協会への支援では、全国の図書館・図書室の発展を率先できるよう、引き続き組織機能強化を図ります。CCC 事業では、これまで支援してきた各 CCC の活動をフォローアップし、活動規模の縮小や、質の低下を防止します。

ベトナム Viet Nam

ベトナム概況

・支援が必要な背景

経済発展を最優先課題として取り組んできたハイフォン市では、経済発展から取り残された人々を支援する社会福祉制度はまだ整備されておらず、困難な状況にある子ども達の権利を守る活動も不十分です。

・支援の目標、目的

ハイフォン市政府による支援が行き届かない困難な状況にある子どもや、障がい児の教育を受ける権利及び発達する権利の実現をめざします。

ベトナム子どもの家廃止

1995年にベトナム北部の港町ハイフォン市に自治労により設立され、2004年からはエファジャパンが支援を引き継いできたベトナム(ニエムギア)子どもの家が、ハイフォン市児童ソーシャルワークセンターに改編されました。

子どもの家を廃止し、児童ソーシャルワークセンターへ改編したいとの連絡をハイフォン市政府から受けたのが2010年5月。しかし、実際はそれ以来ほとんど進展のないまま2年近くが経過していました。その後、2012年4月にハイフォン市政府から年内に改編するとの突然の通知があり、その年の8月に子どもの家は廃止され、児童ソーシャルワークセンターに改編されました。

ベトナム子どもの家は1995年の設立から2012年8月の閉鎖までの間、孤児や様々な理由で親と暮らすことのできない子ども達約200人を保護してきました。保護された子ども達は、その後親戚に引き取られたり、自立して生活できるようになるまで、ここで共同生活を送っていました。また、ここでは識字教室や職業訓練なども行なわれ、様々な事情で戸籍が無い子どもや、障がいがあるなどの理由で正規の公立学校に入学を許可されていない子ども達も学んでいました。このように子どもの家は、ハイフォン市の困難な状況にある子ども達の保護される権利と教育を受ける権利の実現に大きく寄与し

て来ました。

一方で、その間ベトナムの社会経済状況も大きく変わってきました。特に、ベトナムで3番目に大きい都市であるハイフォン市にはベトナム有数の外資系工業団地が幾つか設立され、子どもの家のある市の中心部では経済発展による町の変わりようがはっきり見て取れます。例えば、1995年の子どもの家設立当初は、住む家もなく路上で暮らす子どもの姿を見ることは珍しくありませんでしたが、今ではそのような子ども達を見かけることもなくなりました。このような社会経済状況の変化の下、ハイフォン市の社会福祉分野における支援ニーズも変わってきており、経済発展を優先させてきた歪みから生じる今日的な問題として、HIVや虐待、麻薬、障がい児支援の必要性が高まっています。そしてそれらの問題に対応するために各地域に社会活動員を配置し、ハイフォン市全域を支援対象として網羅する児童ソーシャルワークセンターが設立されました。

子どもの家が改編される前から、ハイフォン市政府から障がい児支援への要請がありました。そこで今後、エファジャパンは障がい児福祉分野で高い専門性を持つ人材を擁する自治労と協働し、ハイフォン市労働傷病兵社会局や児童ソーシャルワークセンターと協力しながら、地域の障がい児の発達する権利を実現するための支援を行なっていきます。



子どもの家で実施した子どもの日イベント



アジア子どもの家奨学金基金

1999年に自治労栃木県本部が500万円をハイフォン市に委託し、その運用利子を活用して奨学金事業を開始しました。奨学金基金はハイフォン市児童保護基金が管理し、困難な状況にありながら優れた学業成績を挙げた子ども達に奨学金を支給しています。2012年度は計112名に1人当たり60万ドン(約3,000円)の奨学

金と10万ドン(約500円)分のギフトを支給しました。



奨学金贈呈式

ハイフォン市障がい児教室活動支援

エファジャパンは地域に密着した障がい児支援の実施をめざして、ハイフォン市の各地域に設置されている16の障がい児



障がい児教室の子ども達

教室の内、5つの障がい児教室の支援を行なっています。2012年度は、各教室の要望によって、保護者を対象にしたリハビリ研修を実施し、文房具や通学用バッグ、知育玩具、冬用ジャケットなどを寄贈しました。2013年度は障がい児教室の運営強化に焦点を当てた支援を行なっています。

ハイフォン市障がい児調査

ベトナム子どもの家が児童ソーシャルワークセンターへ改編されるのを受けて、自治労とエファジャパンは障がい児支援を重点的に行っていくこととなりました。そこで、本格的な障がい児支援開始に向けて、東京都心身

障害福祉センター(当時)の古屋氏と八王子自治研究センター(当時)の中西氏をハイフォン市にお招きし、障がい児調査を実施しました。今後は、本調査の結果を踏まえた計画を基に障がい児支援を行なっていきます。

その他の活動

書き損じハガキの収集による寄付で、ハイフォン市盲学校に滑り台を寄贈しました。ハイフォン市盲学校では視覚に障がいのある子どもや知的障害児など約120人が、学んだり、職業訓練を受けたりしています。この学校の子供達は、障がいがあるため校外で遊ぶことは難しく、学校の敷地内で遊ぶことのできる遊具の設置が望まれていました。今では、休憩時間になるとたくさんの子ども達が集まって寄贈された遊具で遊んでいます。



寄贈した外遊具

ベトナム事業の今後

子どもの家の改編により設置された児童ソーシャルワークセンターと協力しながら、ハイフォン市全域の困難な状況にある子ども達の支援を行なっていきます。その中でも、障がい児支援に重点を置き、ハイフォン市労働傷病兵社会局とも協力していきます。

タイ Thailand

パラミ・ラーニングセンター支援

■ミャンマー概況

2011年3月に文民政権が発足し、軍事政権から民政移管が実現しました。民主化のシンボル、アウン・サン・スー・チー氏は国内外で精力的に活動を再開し、ビルマ労働組合連盟（FTUB）もミャンマー労働組合連盟（FTUM）と改名し、ミャンマー国内で活動を始めました。

■パラミラーニングセンター支援

パラミラーニングセンターは、FTUB（当時）が1999年にタイのターク県メーソットに設立した、ミヤ



ンマーからの移住労働者子弟のための教育施設で、500人近い子ども達が学んでいます。

この施設は、子ども達が犯罪に巻き込まれることや、児童労働に従事することから守り、受入国であるタイの文化を理解することを目的にしています。

2011年度に引き続き、自治労大阪府本部による2年目の支援では、2教室を備える簡易校舎と職員室の建設、コンピュータや教材の補充、保護者への職業訓練、交通安全冊子の発行が実施されました。



2012年2月には、自治労大阪府本部から12名の組合員がセンターを訪問し、就学前教育と保健衛生の研修および排水路の整備を行ないました。

エファは、現場における調整役を担っています。

エファグッズ

エファジャパンでは、ベトナムとラオスで製作された雑貨をエファグッズとして販売しています。

ベトナムの雑貨は、ベトナム子どもの家で職業訓練の一環として制作されていました。子どもの家が改編されて以降職業訓練も実施されなくなったため、一般のグッズは在庫限りで販売終了となります。（自治労布袋は子どもの家の卒業生などにより製作を継続しました）。

ラオスの雑貨は、フランスのNGOであるフレンズ・

インターナショナルが、貧困家庭の親への職業訓練及び家計向上のためラオスで実施している事業により製作されています。製品を購入することで、貧困家庭の家計を安定させ、子どもが路上に出るのを防ぐとともに教育を受ける機会を護ります。



【収支】

収入	「ベトナム子どもの家」グッズ	380,722	支出	仕入れ、輸送経費、雑費等	2,952,402
	その他グッズ	69,600			
	自治労布袋	3,129,300			
収入合計		3,579,622	支出合計		2,952,402
	利益	627,220			

国内事業

イベント・集会

■「移住労働者の女性と子どもを考える」集会 (5/14・東京)

5月14日に自治労会館ホールにて、「移住労働者の女性と子どもを考える」



集会を国際公務労連加盟組合日本協議会（PSI-JC）、およびフィリピンの民間団体 DAWN（ドーン：女性の自立のためのネットワーク）と共同開催しました。

第1部のシンポジウムでは、基調講演として、堀内光子氏（文京学院大学特別招聘教授）が「移住労働者を取りまく世界の動き」について報告。基調講演の後、山岸素子氏（移住労働者と連帯する全国ネットワーク共同代表）からは、日本で生活するフィリピン人母子家庭の困

窮や改定入管法等の影響について、カルメリータ・ヌキィ氏（DAWN代表）からは、フィリピンに帰国した女性労働者と日比国際児の現状や支援活動についての報告がありました。

第2部では、来日した7人の日比国際児によるミュージカル『クレインドッグ』が上演されました。ツルとイヌを両親に持つクレインドッグが、他のイヌと姿が異なる自分が誰なのか知りたいという思いから旅に出る物語で、日本人の父親を知りたいという日比国際児の願いを伝えていました。第1部と第2部を通して延べ54名の方にご参加いただきました。

■その他イベント・集会

- ・第83回メーデー中央大会（4/28・東京）
- ・NTT労働組合児童労働撲滅キャンペーンイベント（5/19・横浜、6/9・札幌）
- ・自治労第84回定期大会（8/30～31・函館）
- ・理事長イーデス・ハンソン講演会（12/1・大阪、2/2・札幌） 他

学習会

■子どもへの暴力防止に関する学習会 (10/12、1/26・新潟)

昨年度に引き続き、日本国内の子どもの権利を守る啓発活動の一環として、特定非営利活動法人子どもすこやかサポートネットと協働で学習会を実施しました。

今年度は新潟県燕市職員労働組合保育部会にご協力いただき、同組合の保育士、幼稚園教諭を対象に2回学習会を実施し、田沢茂之氏（子どもすこやかサポートネット代表）に講師を務めていただきました。第1回目の学習会（10月12日）では、「幼児期の暴力・虐待から見える子どもたちの将来」をテーマに講義が行なわれ、80名が参加。第2回の学習会（1月26日）では、「体罰を用いない、前向き子育て方法」のテーマで講義とグループディスカッションが行なわれ、17名が参加され

ました。

エファジャパンでは今後も学習会の開催等を通じて子どもの権利を守るための啓発活動に取り組んでいきます。

<参加者の感想>

- ・「幼児期のうちに手助けをすることができれば、最小限で済む問題もあるということがわかり、保育士として学ぶことも多くあると感じた。」
- ・「子どもの権利についてもっと理解しなければいけないと思った。改めて日々の保育を見直して、子どもたちの成長に関わっていきたい。」
- ・「グループに分かれて話し合うことで様々な気づきがあり、勉強になった。」

ボランティア

2012年度も、月に1回エファボラ（エファジャパンボランティアデー）でエファグッズの在庫確認や発送物の仕分け梱包などたくさんの事務作業を、デザインボランティアの方には書き損じハガキや古本リサイクル募金

のポスター等デザインでご協力いただきました。エファボラには毎回4～6名のボランティアのみなさんにご参加いただきました。

国内事業

書き損じハガキ・古本リサイクル

■書き損じハガキ収集



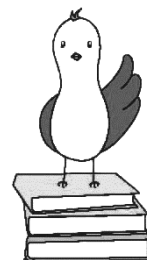
2012年度(4月～3月)の合計は1,078,086円(切手交換後)となりました。ご寄付の延べ件数は126件、ハガキの枚数で22,316枚です。その他、未使用切手のご寄付はエファジャパンの通信費のほか、書き損じハガキを交換する際の手数料に使わせていただきました。さらに、テレホンカード、商品券などによる寄付が81,750円となりました。たくさんのご協力、誠にありがとうございました。

また、2012年度中に、2011年度に収集したハガキ

の資金での支援を実施しました。ベトナムはハイフォン市盲学校への外遊具の寄贈、ラオスはセコン県少数民族学校の生徒達への制服(ズボン、スカート)の寄贈、カンボジアではカンボジア子どもの家の幼稚園に園庭遊具と室内教材の寄贈です。詳しくは各国の事業報告ページをご覧ください。

■古本リサイクル募金-エファジャパンきしゃぼん-

2012年11月より、古書買取店の嵯峨野株式会社と提携し、古本リサイクル募金を開始しました。嵯峨野株式会社での古本買取金そのままエファジャパンへの寄付となります。2013年3月までの寄付額合計は24,311円でした。寄付金は支援事業に使わせていただきます。



広報・その他

■広報誌『えんばわ』(季刊:第25号～第28号)

エファジャパン会員他支援者のみなさま、関係者、自治労各組織へ送付するほか、全国のボランティアセンター、自治体国際化協会でご一般配布をお願いしています。

【特集】

- ・第25号「紛争に翻弄され取り残された子ども達」(カンボジア)
- ・第26号「日本の学生が紡ぐ子ども同士の交流」(カンボジア)
- ・第27号「ベトナム子どもの家改編 子どものためのソーシャルワークセンターへ」
- ・第28号「ラオスの全ての図書館のために～ラオス図書館協会～」

■エファ通信(メールマガジン)

原則として月1回発行しています。バックナンバーはエファジャパンHPにも掲載しています。

■Webページ

エファジャパン公式サイトその他、イーココロ、mixiなどで団体情報を掲載しています。イーココロでは、サイトに登録するとアクション募金等が可能になります。

■自治労通信広告掲載

自治労中央本部のご協力により、年に数回「自治労通

信」に広告を掲載していただいています。2012年度の広告は書き損じハガキでした。デザインはボランティアの方の制作です。

■自治労プレスリリース

月に1回程度、エファジャパンの最近の活動の一つを取り上げプレスリリースとして自治労各県本部へ配信しています。配信した内容は機関誌やWebサイトへの転送も大歓迎です。

■企業等との連携

株式会社ハイム化粧品様に「スマイルご縁(5円)活動」でご協力いただいています。ハイム化粧品の「白い石けん」と「はみがきホワイト」の売上1個につき5円がエファジャパンに寄付される取組みです。

■事務局移転

2012年7月に、同じ千代田区内で事務局を移転しました。2011年の地震で旧事務所の建物にヒビが入るなどしていたのですが、その後も耐震補強対策が取られないことが判明したため、新耐震基準に対応した建物へ移ることとなりました。新しい事務所は少し面積も広く、年々増加していた、支援者や関係団体の方のみなさまへの発送物などの保管場所も確保できるようになりました。

収支計算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
I 経常収入の部			
1 会費収入	5,340,000	4,546,000	794,000
正会員 (個人及び団体)	2,160,000	1,848,000	312,000
シニア会員 (個人)	180,000	138,000	42,000
賛助会員 (個人)	500,000	460,000	40,000
賛助会員 (団体)	2,500,000	2,100,000	400,000
2 収益事業費	3,140,000	3,579,622	△ 439,622
グッズ	3,140,000	3,579,622	△ 439,622
エファグッズ	200,000	380,722	△ 180,722
その他グッズ	60,000	69,600	△ 9,600
ベトナム布袋	2,880,000	3,129,300	△ 249,300
3 エファパートナー収入	2,250,000	1,767,000	483,000
パートナー (個人)	450,000	387,000	63,000
パートナー (団体)	1,800,000	1,380,000	420,000
4 補助金・助成金収入	31,500,000	31,340,000	160,000
自治労共済	15,000,000	15,000,000	0
自治労中央本部	15,000,000	15,000,000	0
その他	1,500,000	1,340,000	160,000
5 寄付金収入	6,000,000	4,630,438	1,369,562
目的指定寄付	5,000,000	4,141,491	858,509
その他 (一般寄付・募金)	1,000,000	488,947	511,053
6 雑収入	0	56,212	△ 56,212
7 為替差益	0	259,699	△ 259,699
経常収入合計	48,230,000	46,178,971	2,051,029
II 経常支出の部			
1 海外事業費	24,890,000	22,757,911	2,132,089
①ベトナム事業費	9,510,000	8,125,190	1,384,810
仕入	2,950,000	2,815,229	134,771
グッズ諸経費	40,000	17,247	22,753
活動費	6,520,000	5,292,714	1,227,286
②カンボジア事業費	7,180,000	6,777,112	402,888
活動費	7,180,000	6,777,112	402,888
③ラオス事業費	5,490,000	6,166,289	△ 676,289
仕入	60,000	45,703	14,297
グッズ諸経費	10,000	7,000	3,000
活動費	5,420,000	6,113,586	△ 693,586
④タイ事業費	2,710,000	1,689,320	1,020,680
活動費	2,710,000	1,689,320	1,020,680
2 国内事業費	8,070,000	6,545,968	1,524,032
①国内事業推進費	3,850,000	3,177,863	672,137
収益事業費	300,000	93,493	206,507
活動費	3,550,000	3,084,370	465,630
②広報事業費	4,220,000	3,348,790	871,210
③人道支援	0	19,315	△ 19,315
3 管理費	19,210,000	18,732,082	477,918
家賃	3,120,000	3,111,290	8,710
事務人件費	7,330,000	7,027,906	302,094
光熱費	120,000	347,276	△ 227,276
通信費	280,000	326,361	△ 46,361
消耗品費	320,000	330,594	△ 10,594
旅費交通費	540,000	499,630	40,370
総会・理事会運営費	260,000	260,030	△ 30
法定福利費	2,520,000	2,355,495	164,505
修繕費	1,200,000	946,000	254,000
印刷費	100,000	114,597	△ 14,597
機材リース代	460,000	458,961	1,039
福利厚生費	30,000	37,331	△ 7,331
支払手数料	90,000	196,924	△ 106,924
租税公課	10,000	6,455	3,545
研修費	20,000	7,500	12,500
新聞図書費	20,000	0	20,000
業務委託費	2,000,000	1,995,280	4,720
退職給付費用	470,000	469,600	400
保険料	20,000	14,000	6,000
雑費	300,000	226,852	73,148
4 為替差損	0	3,983	△ 3,983
5 法人税等	70,000	70,000	0
経常支出合計	52,240,000	48,109,944	4,130,056
経常収支差額	△ 4,010,000	△ 1,930,973	△ 2,079,027
III その他資金収入			
その他資金収入合計	0	0	0
IV その他資金支出			
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額	△ 4,010,000	△ 1,930,973	△ 2,079,027
前期繰越収支差額	0	29,617,654	△ 29,617,654
次期繰越収支差額	△ 4,010,000	27,686,681	△ 31,696,681

財産目録

2013年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	30,627,178		
現金 現金手許有高	123,812		
普通預金	10,468,482		
中央労働金庫市谷支店	5,049,479		
東京三菱銀行市ヶ谷支店	1,067,669		
ラオス外貨預金	311,535		
ベトナム外貨預金	101,655		
東京三菱	3,938,144		
郵便振替口座	17,254,884		
定期預金	2,780,000		
棚卸資産	117,528		
前払金	940,500		
未収金	321,090		
前払費用	266,000		
仮払金	430,454		
流動資産合計		32,702,750	
2 固定資産			
その他の固定資産			
敷金	1,440,000		
その他の固定資産合計	1,440,000		
固定資産合計		1,440,000	
資産合計			34,142,750
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	609,160		
前受金	50,000		
預り金	337,109		
源泉税	70,510		
健康保険	62,941		
厚生年金	97,241		
雇用保険	63,117		
住民税	43,300		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		1,066,269	
2 固定負債			
退職給付金引当金	2,789,800		
固定負債合計		2,789,800	
負債合計			3,856,069
正味財産			30,286,681

貸借対照表

2013年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	30,627,178		
現金	62,042		
小口現金	61,770		
普通預金	10,468,482		
郵便振替口座	17,254,884		
定期預金	2,780,000		
棚卸資産	117,528		
前払金	940,500		
未収金	321,090		
前払費用	266,000		
仮払金	430,454		
流動資産合計		32,702,750	
2 固定資産			
その他の固定資産			
敷金	1,440,000		
その他の固定資産合計	1,440,000		
固定資産合計		1,440,000	
資産合計			34,142,750
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	609,160		
前受金	50,000		
預り金	337,109		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		1,066,269	
2 固定負債			
退職給付引当金	2,789,800		
固定負債合計		2,789,800	
負債合計			3,856,069
III 正味財産の部			
正味財産			30,286,681
(うち当期正味財産減少額)			(1,930,973)
負債及び正味財産合計			34,142,750

特定非営利活動法人エファジャパン 2012 年度年次報告書

発行 特定非営利活動法人エファジャパン 2013 年 7 月 31 日

〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-2-2 九段宝生ビル 3 階

電話 03-3263-0337 FAX 03-3263-0338 E-mail info@efa-japan.org

ホームページ <http://www.efa-japan.org>



すべての人々に、^{ちから}力を。